



## 激痛でも放置！？心筋梗塞の意外な落とし穴

2021年01月06日放送



### 今回の番組について

心臓の動脈が詰まり、すぐに治療しないと心臓の細胞が壊死（えし）してしまう心筋梗塞。適切な治療をしないと24時間でおよそ3割が亡くなると言われ、心臓の力が弱まる後遺症が残ることも多い病気です。発作時の主な症状は強烈な胸の痛み。それなのに、番組の調査では、なぜか発作を起こした人のおよそ半数がすぐには病院へ行かなかったことがわかりました。いったいなぜなのでしょう？その原因となる心筋梗塞の意外なメカニズムと人間の不思議な“心のクセ”を紹介しました。



### 今回のお役立ち情報

#### 迅速な治療が大切！心筋梗塞

心筋梗塞は動脈硬化などが原因で血液の塊（血栓）が心臓の血管に詰まってしまう病気です。一刻も早く血液の塊を取り除いて血流を再開させることが必要になりますが、その治療にはカテーテルという細い管を使います。手首などの血管から詰まっている部分までカテーテルを入れて、その先に装着されているステントという小さな金属の網で血管を広げて血流を再開させます。病院に行くまでに亡くなる人も多いのですが、この治療を受ければ95%とも言われる高確率で命が助かります。発作が起きたらとにかく早く病院で治療を受けることが大切です。



ステント

### 半数がすぐに病院へ行かない！？その不思議な理由とは

今回、番組では心筋梗塞の経験者110名に聞き取りやアンケートなどで調査を行いました。そこから浮かび上がったのは「およそ半分の人がすぐに病院へ行っていなかった」という事実！強烈な症状があるにもかかわらず、なぜ病院へ行かないのか？それには3つの理由があると考えられます。

#### すぐ病院へ行かない理由①「自分は大丈夫だろうと思った」

「胸に象が乗っている感じ」「やりで胸を刺されたよう」など胸に強烈な症状があるのに、経験者たちの中には「年のせい」「花粉症が悪化した」などと考える人も。実はこれ、人の心の不思議なクセが影響しています。明らかに異常なことが起きているのに「自分は大丈夫だろう、自分だけは助かるだろう」と考えてしまう、「正常性バイアス」と呼ばれる心理です。人は誰でも同様の反応をする可能性を持っていると考えられるのです。

#### すぐ病院へ行かない理由②「症状が治まったから」

心筋梗塞は強烈な胸の痛みなどの症状が出ますが、数分から30分ほどで、その症状が消えてしまう場合も多くあります。実は、血液の中には血栓を溶かす成分も入っており、その成分が血栓を溶かして血流が再開し、痛みなどの症状が消えることがあるのです。しかし、安心してはいけません。動脈硬化でできた血管の壁の“コブ”は残っているので、いつ再発するかわからない危険な状態。すぐに手当をしなくてはならないのです。

#### すぐ病院へ行かない理由③「まさか心臓の病気とは思わなかった」

心筋梗塞は胸の他に歯、あご、肩、腕などに痛みを感じることがあります。痛みを感じる信号は、脊髄を通過して脳へ伝わります。実は心臓からの信号も、腕やあごか





※ご契約の電話回線、通信会社によってはつながらない場合もあります。  
詳細はお住まいの自治体にご確認ください。